

国際化学肥料ニュース（2024年9月）

肥料業界の2024年9月動態

- * インド NFL 社の尿素国際入札はすでに 117.7 万トンの購入を決定した。そのうち中東産尿素は 50 万トン以上、ロシア産尿素は 30 万トン以上、東南アジア産尿素も約 10 万トンである。ただし、交渉が続いて、数量はさらに増える可能性がある。なお、中国産尿素の応札がない。

- * インド NFL 社の尿素国際入札の結果を受け、9 月第 1 週（2～8 日）の尿素国際相場は安定さを保っている。生産者やその他の供給業者は、インドの大量の尿素購入が尿素市場を支えることになると期待している。東半球では中東産尿素は FOB320～330 ドル／トンでやや下がった、マレーシアとインドネシア産尿素が国際市場から姿を消したが、ブルネイ産尿素の出現で東南アジアへの供給が保っている。西半球では、ラテンアメリカとヨーロッパ向けの問い合わせが増えるため、先物販売が順調に進み、9 月分のエジプト産大粒尿素が先週より 10 ドルも上昇し FOB 価格 350 ドルを超えた。アメリカも FOB Nola の価格が 8 月中旬以来初めて 310 ドルを超え、318 ドルに達した。ただし、ロシア産の FOB バルト海価格が 280 ドル／トン台前半まで下がっている。

- * 中国は尿素に限る厳しい輸出規制により今年の輸出量が急減し、国内生産能力の増加に相まって、9 月第 1 週の尿素工場出荷価格が 1850 人民元（約 260 ドル）／トン以下に下落して、2021 年初頭以来の最低水準となった。

- * エチオピアの EABC 社は 25 万トン尿素の国際入札を発表した。9 月 17 日締切りと開札、5 回に分けて 10～11 月にジブチ港に到着納品という条件である。

- * CNN ブラジルの報道によれば、ブラジル化学肥料工業協会（Sinprifert）はブラジルの国内化学肥料生産量 680 万トンしかなく、輸入量 3940 万トン、輸入への依存度 86% に達した。2050 年までに国内生産量を 5 倍に増やせば、輸入化学肥料への依存度が 50% まで下がることができるとの報告がある。

2024 年現在、ブラジル国内に 25 ヶ所の化学肥料工場がある。Amazonas 州 Autazes 市にある Potassio do Brasil 社の加里鉱山が国内加里需要量の 20～25% を生産して、Ceará 州 Santa Quitéria 市にある Galvani Fertilizantes 社のりん酸肥料工場も国内りん酸肥料需要量の約 10% を生産する。窒素肥料は主に Petrobras 社（ブラジル国家石油公社）の Mato Grosso do Sul 州、Bahia 州、Espírito Santo 州にある窒素肥料工場が生産する。2020 年以降、ブラジルは化学肥料生産能力の増強に力を入れている。現在建設

中の主な化学肥料工場は Amazonas 州の Autazes 加里鉍山、Minas Gerais 州の加里鉍山、Ceará 州の Santa Quiteria リン酸肥料工場、Rio Grande do Sul 州のりん酸肥料工場、Mato Grosso do Sul 州の Tre 窒素肥料工場などがある。

- * 中国税関の速報によれば、2024 年 8 月中国化学肥料輸出量が 18.8%増の 404 万トン。その内訳は尿素が 90.3%減の 3 万トン、硫安が 34.8%増の 209 万トン、DAP が 84.8%増の 61 万トン、MAP が 15.6%減の 27 万トン、尿素輸出に対する厳しい規制が続いている。

一方、2024 年 8 月の中国化学肥料輸入量が 14.1%増の 105 万トン。その内訳は塩化加里が 13.6%増の 92 万トン、NPK 化成肥料が増減なしの 10 万トン。

- * インド NFL 社の尿素国際入札の終了に伴い、ヨーロッパと南米の需要が現れることもあり、9 月第 2 週（9～15 日）の尿素国際相場はゆっくり上昇に転じた。東半球では、中国産尿素がほとんど輸出できない状態が続いている。中東産尿素はインド向けの輸出に集中しているため、品不足で、FOB 価格が 330 トン／トン以上に戻った。イラン産尿素の FOB 価格もやや上昇して、292～295 ドル／トンで 3 万トン以上を販売した。

西半球では、南米の需要が現れたため、ナイジェリア Dangote 社大粒尿素の FOB 価格が前週より 10 ドル上がって、330 ドル／トン台に、アメリカの FOB Nola 価格も 1～3 ドル上がって、311～319 ドル／トンになった。CFR ブラジルの大粒尿素が 353～360 ドル／トン、CFR アルゼンチンの大粒尿素が 370～375 ドル／トンで、前週より 10 ドル以上も上昇した。

- * アメリカの MOSIC 社は加里とりん酸肥料が運営上の課題があり、2024 年第 3 四半期の生産量と出荷量が減少することを発表した。加里について、カナダの Esterhazy 鉍山と Colonsay 鉍山が電気設備の故障に見舞われ、2024 年第 3 四半期の加里鉍石の生産量と出荷量は合計で 20～30 万トン減少すると予想される。りん酸肥料について、9 月 11 日上陸したハリケーン Francine などの悪気象現象により、総計で 8～11 万トンの生産量と出荷量が減少されると推定される。

- * 9 月第 3 週（16～22 日）の尿素国際相場はインド NFL 社の入札結果により活性化され、FOB 価格が上昇した。東半球では 10 月末から 11 月初め出荷の中東尿素は FOB 価格が 10 ドル上昇し、350 ドル／トンになった。7 月以来初めて行ったインドネシア産大粒状尿素の販売入札では、FOB355 ドル／トン前後で 3 万～4.5 万トンの入札があった。西半球ではエジプト産大粒尿素の FOB 価格が 360 ドル／トン台の前半から中盤に取引され、ヨーロッパの買い手はフランスなどの主要市場向けの新規出荷に CFR390 ドル

ル／トン台前半を目標としている。ブラジルでは CFR 355 ドル／トンで販売しているが、多くのバイヤーが CFR 360 ドル／トンに引き上げられると予測している。このまま行くと、9月末から10月の尿素国際価格が高止まりのまま推移するだろう。

- * 9月19日、インド RCF 社は新しい尿素国際入札を発表した。10月3日締め切りと開札、購買数量未定、11月20日までの船積みという条件である。これは同じインドの NFL 社が8月29日に締め切りの尿素国際入札で約112万トンを確認してからわずか3週間後に行われることにして異例なことである。すでに多くのサプライヤーがインドへコミットメントをしており、尿素国際相場を一層引き上げる可能性がある。
- * 9月第4週（23～29日）の尿素国際相場はインド RFC 社の新しい尿素国際入札の影響を受け、高騰している。特に西半球ではエジプト産大粒尿素的の FOB 価格が 370～375 ドル／トン、アルジェリア産大粒尿素的の FOB 価格が 375 ドル／トン以上に上がった。CFR ブラジル価格が 370 ドル／トン、CFR アルゼンチン価格も 380 ドル／トンを超えた。FOB アメリカ Nola 価格が 315～320 ドル／トンに若干上がった状況である。
東半球ではインドネシアの Kaltim 社は大粒尿素的の販売入札に FOB350 ドル／トンで 4.5 万トン販売した。中東産大粒尿素的も FOB356 ドル／トンで 3 万トンを契約した模様。一方、イラン産尿素的はまだ FOB300 ドル／トン

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの BCI Minerals 社は西オーストラリア州の Mardie 食塩と加里プロジェクトが政府の環境認可を得たことを発表した。Mardie プロジェクトは輸出用の高品質工業塩を年間 535 万トン、硫酸カリウムを年間 14 万トン生産する計画で、2027 年第 2 四半期から食塩と硫酸加里を出荷始める予定である。
- * エジプトの El Delta 社は Talkha 県にある尿素工場の生産能力を 1725 トン／日から 2250 トン／日に拡張する。そのアップグレードとプロセス設計パッケージ（PDP）はイタリアの Sustainable Technology Solutions 社が担当する。

その他

- * カナダ通信社 8月24日の報道によれば、カナダ労使関係委員会（CIRB）はカナダ鉄道（CN）とカナダ太平洋カンザスシティ鉄道（CPKC）およびカナダ鉄道労働組合（TCRC）の3者に対して、8月26日に鉄道運行を再開させる裁定を下した。カナダ鉄

道労働組合はその裁定に従い、8月26日0時からストライキを終了することを発表した。8月22日から始まったこのストライキは政府の介入により僅か4日間で終わった。

- * タイ政府鉱産資源省（DMR）の発表によれば、タイの加里資源埋蔵量が100億トンを超え、東北部 Khorat 盆地に集中して、161兆タイバーツ（約4.8兆ドル）の価値がある。すでに数カ所を指定して、開発を計画しているという。ただし、環境保護組織は加里資源の開発に発生する排水が周辺地域の水資源と土壌を汚染する可能性が高いため、政府の開発計画を法律的手段で阻止する声明を発表した。
- * UAE（アラブ首長国連邦）の Fertiglobe 社は EU と 2027 年からの 7 年間グリーンアンモニアを供給する契約を締結した。1年目の 2027 年に 1.95 万トン、最終年の 2033 年に 39.7 万トンを提供して、総額 3.97 億ユーロという内容である。Fertiglobe 社のエジプト Ain Sokhna 工場は太陽光発電でグリーンアンモニアを生産し、主にドイツに輸出するという。
- * アメリカの種苗会社 Caudill Seed 社は子会社の Kentucky Fertilizer 社を通じてアメリカケンタッキー州にある Southern States Coop の肥料工場を買収した。この買収により、Caudill Seed 社は 2 番目の肥料工場を入手し、農業および芝向けの肥料生産能力を大幅に拡大した。
- * オーストラリアの Reward 社（Reward Minerals Limited）は西オーストラリア州 Newman にある Beyondie potash plant の加里工場を買収する。買収金額 213 万オーストラリアドル（約 147 万米ドル）。当該加里工場は 2020 年から 2022 年にかけて建設され、塩湖の鹹水から年間 9 万トン硫酸加里を生産する計画であるが、資金不足で、2023 年から建設が止まっている。
- * ノルウェーの Yara 社はドイツの Brunsbüttel に新しいアンモニア輸入ターミナルを正式にオープンした。このターミナルは年間最大 300 万トンの低 CO₂ グリーンアンモニアとブルーアンモニアを輸入できる。これは 53 万トンの水素に変換でき、2030 年欧州全体の水素目標の約 5% に相当する。これらの低 CO₂ アンモニアは従来の窒素肥料原料などだけでなく、船舶燃料、発電、水素キャリアなどの新しい用途にも使われる予定である。